

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	藤野 明子
論文担当者	主査 小山 英則
	副査 石原 正治
	副査 吉村 紳一
学位論文名	Atherosclerotic Plaque Component as a Risk Factor for Distal Embolization During Percutaneous Coronary Intervention –Pathology of Tissue Obtained by Distal Protection Device– (経皮的冠動脈治療における末梢血栓塞栓症の危険因子に関する考察：末梢保護デバイスによって捕捉された粥状硬化プラークの病理学的検討)
論文審査の結果の要旨	
<p>経皮的冠動脈形成術（Percutaneous coronary intervention, PCI）の合併症として、末梢の血栓塞栓症による心筋梗塞や微小循環障害が知られている。藤野氏は、末梢保護デバイスによって捕捉された組織の病理学的特徴およびその組織量と組織性状との関連について検討し、末梢の血栓塞栓症の危険因子を検討した。研究対象は 2010 年から 2015 年の連続した 671 症例の末梢保護デバイス内に捕捉された組織である。組織総量を半定量化（4段階のスコアリング）し、壊死性コア、線維組織、カルシウム微粒子、血小板血栓、器質化血栓などの病理学的結果との関連性について検討した。全 671 症例のうち、急性冠症候群症例が 61.2% を占め、49.9% は左冠動脈前下行枝に対する PCI 例であった。病理学的評価においては、全症例の 40.7% に壊死性コアが含まれ、41.4% に線維性組織、18.0% にカルシウム微粒子、93.1% に血小板血栓、58.3% に器質化血栓を認めた。末梢保護デバイス内の組織総量にかかわる因子として、壊死性コア、線維組織、カルシウム微粒子、血小板血栓、器質化血栓が多いほど、また抗血小板薬・スタチンの低服用率が関連した。また多変量解析により、壊死性コア、線維組織、血小板血栓、および急性冠症候群の発症が組織総量の高スコアに独立して関連した。</p> <p>本研究により、PCI による末梢への組織飛散量に、壊死性コアだけでなく線維組織の存在が独立した規定因子として抽出された。線維組織断片は、脆弱な線維性被膜に由来するものと考えられ、PCI 時の末梢塞栓症のリスクとなる可能性を示した本研究は、臨床的に大変重要な知見であり、学位授与に値するものと評価した。</p>	